

十月十九日(木) 五校時 指導者 西原 寿美代
三原市立系崎小学校 特別支援(知的)学級 あおぞら組
算数科「単元名 おおきさくらべ(1)」
第四時

授業構成図

本時のねらい
長さ比べの考え方を基に、かさを比べることができる。
キヤリア教育の視点☆
長さ比べの考え方を基に、かさを比べるという新たな問題解決に取り組むことができる。
(課題対応能力)

目指す子どもの姿
S 長さ比べの考え方を基にかさを比べ、水のかさ比べが、長さ比べのどのやり方とつながるかを選んでいる。
A 長さ比べの考え方を基にかさを比べている。

振り返り場面
Aだと判断した子どもの発言
わたしは、Aだと思います。
長さの比べ方を基に、かさを比べることができたからです。
Sになるためには
かさ比べのやり方が、長さ比べのどのやり方とつながるかを選ぶことができたならSだと思います。

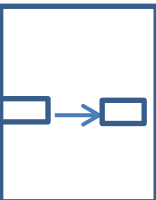
5 授業構成図

見通しや実行方法を発想する場面

⑤かさの比べ方を考え、実際に比べる。☆
T ⑥の瓶には、水が入っています。これを⑦の瓶に移すとどうなると思いますか。
C ⑥ぼれる(溢れる)と思います。
C びったり一緒になると思います。
C 全部入ります。まだ水を入れられる感じになると思います。
留児童に予想させるとともに、予想した理由を教師が示す複数の理由の中から選択させる。
T どうなるかやってみましょう。
C ⑥ぼれた(溢れた)。
T これは、⑥と⑦のどちらに水が多く入るといふことなのでしょうが。
C ⑥の方です。
T ⑥から⑦に水を移したらどうなるのかやってみましょう。
C 水が全部入った。まだ少し水を入れる。
T この比べ方は、長さの比べ方のどのやり方と同じだと思いますか。
C 「比べようとする物同士で比べる」だと思います。
T 他の比べ方でもかさを比べられないでしょうか。
T (児童から考えが出ない場合は)ここに二つのビーカーがあります。⑧と⑨の瓶には、色水が入っています。色水とビーカーを使ってかさを比べるにはどうしたらよいでしょうか。
C 色水をビーカーに入れて比べます。
留 A 兄・B 兄にそれぞれ役割を持たせ、色水をビーカーに移させる。また、どのように見てビーカーに入っている水のかさを比べるのかをpushする。
T このやり方でも、かさを比べられませんでしたね。この比べ方は、長さの比べ方のどのやり方と同じだと思いますか。
C 「別の物を使って比べる」と同じだと思います。
⑥本時のまとめをする。
かさは、比べようとする物同士で比べたり別の物を使って比べたりできることがわかった。

⑦本時の振り返りをする。
対象と既存の知識とを関連づけ、対象が生じる原因を類推

思考スキル「つながりを考える」
↓
思考ツール「枠・矢印」



問題(課題)を見出す場面

①本時の学習内容を知る。
T 二本の瓶のうち、水が多く入る方を教室で使います。どちらの瓶に水が多く入るのでしょうか。
C ⑥だと思います。
T 何故、そう思ったのですか。
C 瓶の横が太いからです。
C ⑥だと思います。瓶の背が高いからです。
T どちらの瓶に水が多く入るのか、実際に比べてみましょう。
②算数用語「かさ」を知る。
T 「かさ」は、入れ物に入る水の量のことです。どちらの瓶に水が多く入るのか比べることを「かさを比べる」と言います。
③問題を知り、学習課題をたてる。
T ⑥の瓶、⑦の瓶、どちらに水が多く入るのか、これまでに学習した長さの比べ方を使って水のかさ比べをしましょう。
かさくらべをながさのくらべかたをつかってしよう。

④ループリックの設定をする。
T この時間のAとSを決めましょう。
C 「Aは、長さの比べ方を使って、水のかさを比べている」がいいと思います。
C 「Sは、長さの比べ方を使って水のかさを比べて、長さ比べのどのやり方とつながるか選んでいる」がいいと思います。
留 子どもたちと対話しながらループリックを設定する。

対象と既存の知識との「ズレ」を認識

【ながさをくらべる】

ならべる

かさねる

くらべようとするものどうしで
くらべる。
(くらべようとするものだけを
つかう。)

【かさをくらべる】

くらべようとするあいての
びんにうつす。

かみてえふをつかう
(ながさをうつす)

べつのもをつかってくらべる。
(くらべようとするものと
べつのもをいっしょにつかう。)

おなじおおきさのいれものに
うつす。

ます・しゃりょうなどの
かずをかぞえる

もとになるものの「いくつぶん」で
くらべる。